

里山グループ

里山の今



エコグループ

◆里山林整備の方向性と課題

山本 隆造

里山グループではナラ枯れによる枯損木の処理が一段落した今、実施してきた整備活動を整理し、グループ内の意思統一を図りながら、今後の整備方針、具体的活動の方向性を定めるため、グループ会議を重ねている。課題、方向性について2~3紹介する。

1.ならやま里山林整備の基本方針

2010年先輩方により基本方針が定められた。

- ① 古都奈良の歴史的風土にふさわしい景観形成活動を基本コンセプトとする。
- ② 豊かな自然の形成：具体的には里山の生態系の保存と世代更新の確保を活動目標とする。基本方針に基づき、これまで里山林の整備をしてきたが、今後もこの基本方針を維持する。

2.どのような里山林を目指すのか

ならやまの里山林は、昔アカマツを中心とした林分であったと聞くと、現在のコナラを中心とした雑木林に遷移した。この現状を受け入れ、「クヌギ・コナラなど落葉広葉樹を中心とした里山林」を目指す。イメージ的には、文部省唱歌の「紅葉（もみじ）」にあるような里山林。

3.里山林の更新・再生の促進

更新・再生の方法として強間伐と部分皆伐による方法がある。これまで300余本のクヌギ、コナラを植樹してきた。部分皆伐地区では植樹した苗が順調に生育しており、更新・再生に有効と判断。部分皆伐の方向で進める。

シイタケ櫓木などに利用する木は、世代更新、薪材確保の意味で大径木を優先して伐採する。

4.人手・人材不足

里山グループは守備範囲の広さと作業量に比し人員が不足している。高齢化による人員の減少も予想され、次世代の人材育成が急がれる。里山に興味のある方はぜひご参加を。

◆田畑に愛称をつけました

吉川 利文

ならやまの田畑に愛称を付けました。いま田畑のあちこちに銘板が気恥ずかしそうに立っている、あれです。

エコファームは「プロジェクトプランツとエンジョイプランツ」という車の両輪のような基本方針で進められています。エンジョイプランツは会員が農作業や作物に愛着を持って活動し、自然や景観保全に貢献しようというものです。グループでは、さらに愛着を深めようと昨秋から、愛称づくりに取り組みました。中には「番号を振るだけでいい」といった“機能”重視派もおられました。そんな意向も酌みつつ、思い切った遊び心も盛り込みました。

その典型が水田のある西地区です。毎年小学生が田植えや刈り入れを体験しに来ます。その意義を込めて北の水田を「はぐくみ」、南の水田を「未来っこ」と名づけ、半面、周囲に点在する畑を西から「西ー1」「西ー2」…と機械的にナンバリングしました。

同様に、ベースキャンプ東側の大きな畑は、花も野菜も果実も華々しく成育しているので「花野果（はなやか）」と思いきり遊び、その代わり、サイクリングロードから南に並ぶ畑たちを「南ー1」「南ー2」…と番号を振るだけにとどめました。

平城宮跡の一角とあって雅やかさも、と農小屋の東側は年中緑の野菜が植わっているので「常盤（ときわ）」とし、また、サイクリングロードがたおやかにカーブしている東側の畑は万葉集にある「佐用姫（さよひめ）」としました。第2駐車場の車列の前の高台にある細長い畑は、その形状からずばり「天の川」です。

たかが愛称、されど愛称。そんな愛称に“せめて実りへの応援歌になってくれれば”との願いを込めています。